

Hoffer 座位能力分類 (JSSC 版)

クイックリファレンス (A4 / 院内共有用)

評価の前提 (開始条件)

- ・安定した平面座面で端座位・足底接地・外部支持（柵・手すり）を使わない（見守りは可）
- ・安全第一。日内変動がある場合は「低いレベル」で記録（安全側）。

評価手順 (30秒基準)

1～4 の順で確認します。

1. 環境を整え、端座位をとる（見守りは行うが外部支持は使わない）。
2. 上肢の使い方と骨盤・体幹アライメント（前額面・矢状面の崩れ）を観察。
3. 会話・深呼吸・上肢拳上などの軽い課題中も安定して30秒保持できるか確認。
4. 必要に応じて再試行。迷ったら安全側（低いレベル）。

判定基準 (JSSC 版: 3段階)

レベル	判定	30秒基準
1	手の支持なしで座位保持可能	上肢を自由に動かしても崩れず、30秒保てる
2	手の支持で座位保持可能	片手・両手で座面を支えれば、30秒保てる
3	座位不能	外部支持がなければ保持できず倒れていく

判定から選定へ (最初の一手: 目安)

レベル	座位傾向	車椅子・支持の目安
1	支持なしでも安定	標準／セミモジュラーの最適化。長時間使用はクッション調整を併用。
2	手支持が必要	モジュラー車椅子+側方・骨盤サポート。座位時間は短め設定から段階的延長。
3	外部支持が不可欠	ティルト・リクライニング等の姿勢変換型+高機能クッション。体幹・頭部支持を併用。

よくあるミスと対策 (記録ポイント)

ミス	対策	記録ポイント
柵や手すりを使わせる	外部支持は不可。見守りのみで評価。	環境／外部支持：使用なしと明記
軽課題を入れない	会話・上肢拳上などを入れて確認。	課題：会話・上肢拳上の可否
日内変動を無視	変動時は低いレベルで採用（安全側）。	時間帯／疲労：朝・夕など

出典：日本シーティング・コンサルタント協会「座位能力分類 (Hoffer 座位能力分類 JSSC 版)」等を参考に作成。